

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	2-(4)-ア	安全・安心に暮らせる地域づくり	施策	① 地域安全対策の推進	
			施策の小項目名	○安全なまちづくりの推進	
主な取組	安全なまちづくり推進事業			実施計画記載頁	136
対応する主な課題	①犯罪の起きにくい沖縄県の実現を図るため、警察安全相談体制、人材育成や施設整備など警察基盤を強化するとともに、犯罪被害者の負担軽減・早期被害回復を図るため、犯罪被害者に対する支援活動等を推進する必要がある。また、刑法犯認知件数は減少しているものの、子ども・女性に対する前兆事案の増加など、県民の体感治安としては未だ十分とはいえず、取組の充実強化を図る必要がある。さらに、サイバー空間の脅威が深刻化する中、サイバー空間の治安維持に係る取組を強化するとともに、県民のサイバーセキュリティ意識の向上を図る必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
犯罪のない安全で安心して暮らせる沖縄県の実現を目指して、「ちゅらさん運動」の浸透・定着と、県内各地で取り組まれている自主防犯活動を拡大、活性化させるために、犯罪情勢等の情報提供や必要な支援を積極的に行う。		「ちゅらさん運動」の浸透・定着				
実施主体	県	自主防犯ボランティア団体への支援				
担当部課【連絡先】	警察本部生活安全部生活安全企画課 【098-862-0110】	犯罪防止に配慮した環境設計の促進(防犯カメラの設置促進等)				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)			
予算事業名 犯罪抑止対策強化事業							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
県単等	直接実施	21,784	17,079	35,345	27,657	32,986	34,024	県単等	○H29年度: 安全で安心な沖縄県の実現を目指して、防犯アドバイザー支援要員と連携した「ちゅらさん運動」の普及促進及び県民の防犯意識の高揚を図った。 ○H30年度: 安全で安心な沖縄県の実現を目指して、防犯アドバイザー支援要員と連携した「ちゅらさん運動」の定着化、自主防犯ボランティアの活性化を図る。	
予算事業名 生活安全活動事業							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
県単等	直接実施	2,398	7,903	3,250	2,850	4,247	3,694	県単等	○H29年度: 防犯ボランティアの活性化のため、防犯ボランティアへ防犯物品を配布、研修会を通じた活動の活性化を図ったほか、防犯カメラを3式購入した。 ○H30年度: 防犯ボランティアの活性化のため、各種支援や防犯カメラの設置促進など多角的な方面から県民の体感治安の向上を図る。	

様式1(主な取組)

活動指標名	自主防犯ボランティア団体数				H29年度			H29年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		740団体	753団体	727団体	725団体	733団体	—	100.0%	37,233	順調
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案								反映状況		
<p>①「ちゅらさん運動」に関する取組については、他の取組と関連する部分も多いことから、県民をはじめとする県内の事業所や自治体と連携し、既存の取組に可能な範囲で防犯要素を意識した「プラス防犯」に取り組むとともに、その普及浸透を図ることで、県民全体の防犯意識の向上を図る。</p>								<p>①県や市町村が制作する広報紙及び事業所が作成するチラシ、ラジオ番組による広報活動など既存の取組に防犯要素を付加した「ちゅらさん運動」や防犯情報を提供することによって県民の防犯意識の高揚に寄与した。</p>		



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証(Check)

#### (1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

##### ○内部要因

・全国的に防犯ボランティア団体の構成員は高齢化が進み、後継者不足により活動を中止する団体も後を絶たないことから、引き続き、関係機関・団体と連携して、若い世代の参画を図っていく必要がある。

##### ○外部環境の変化

・当県では、人口増加率が全国と比較して高いほか、外国人の入域観光客数も年々増加するなど県民を取り巻く環境は大きく変化しており、これまで以上に安心感の醸成が重要性を増している。県民や観光客が安心できる環境づくりとして、県、市町村が管理する道路や建物への防犯カメラ及び防犯灯の設置拡充が不可欠である。

#### (2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・国による「防犯灯・防犯カメラ等緊急整備事業」により、県内各地に防犯灯及び防犯カメラが設置されるが、繁華街や公園などへの設置だけではなく、引き続き、各自治体に対して、その他の公共空間へも設置拡充することについて働きかけを行う必要がある。  
・タイムリーな防犯情報を地域住民へ提供し、「地域の安全は、地域で守る。」という気運を醸成図る必要がある。

### 4 取組の改善案(Action)

・防犯カメラの設置箇所周辺と未設置箇所周辺における犯罪の発生状況を集約・比較して、分析した防犯情報を県民に向けて広く発信することにより、県民全体の防犯意識の向上を図るほか、各自治体に対しては自主的に防犯カメラを設置するよう働き掛ける。

・関係機関と連携し、あらゆる機会を通じて県民に対して「ちゅらさん運動」の普及及び防犯意識の向上を図る。